

広報担当が取材に行きます。あなたの身近にあるホットで楽しい話題やイベントなどの情報をお待ちしています。
秘書広報課 ☎0040 ✉koho@city.makinohara.lg.jp



飲食店を出店する「こどもスタッフ」

「ぼくまち」ができて10年

■KIDS TOWN ぼくらのまちのはら2025

「ぼくらのまちのはら2025」が8月23日と24日、い〜らで開催されました。

これは子どもたちが主体となってまちを作るプロジェクトで、今年は、10周年を記念して2日間開催しました。

アクセサリー店や飲食店、学校など、こどもスタッフ45人が約2カ月かけて企画、準備してきた夢いっぱいブースが出店。2日間で延べ約200人の小中学生による「ぼくまち市民」が参加し、会場はとてにぎわいました。

消防士ってカッコいい！

■多機能型事業所が消防体験

静岡市牧之原消防署は8月12日、同署で「多機能型事業所いろいろ」を対象に、消防体験を行いました。

これは例年消防に対する理解を高めるために行っている「夏休み消防体験」をきっかけに、同事業所から依頼があり、開催となったものです。

小学生から高校生まで15人が参加。庁舎見学を行った後、消防隊員のように防火衣装着や放水体験、救助隊員のようにロープを渡る体験など、さまざまな消防活動を体験しました。



ロープ渡りを行う参加者



安永3(1774)年頃、大江八幡宮に奉納されたと言われる扁額

意知の貴重な資料を展示中

■田沼意知の筆跡による扁額を市史料館で展示

市史料館では令和8年1月12日まで、田沼意次の嫡男・田沼意知の筆跡である大江八幡宮本殿の扁額を同館2階ホールに展示しています。

普段は間近で見えることはできませんが、大河ドラマの盛り上がりもあり、今回の展示につながりました。「八幡宮」と書かれている扁額は縦38cm、横80cm。意知に関する資料がほとんど残っていない中で、同社に伝えられた原書とともに意知の筆跡を伝える歴史資料として大変貴重なものとなっています。

終戦から80年 改めて平和を祈る

■第15回牧之原市平和展

第15回牧之原市平和展が7月26日から8月15日まで開催されました。

世界の恒久平和と市民が安全かつ文化的な生活を営める社会の実現を願い毎年開催され、期間中、市役所両庁舎で広島・長崎における原爆の惨状を映したパネルを展示しました。また、8月3日はさざんかでイベントを開催。二胡彩音による演奏会のほか、第五福竜丸展示館学芸員の市田真理さんによる講演では当時の写真などを使い、核兵器の恐ろしさや戦争の悲惨さなどが伝えられました。



第五福竜丸展示館学芸員の市田さんによる講演を約50人が聴講

菓子でも意次侯の功績を全国にPR

■「第28回 全国菓子大博覧会・北海道」受賞者が表敬訪問

市内菓子店の「甘蔵さかした」(坂部区)が「第28回 全国菓子大博覧会・北海道」で入賞し、8月25日に杉本市長を表敬訪問しました。

これは「お菓子の祭典」として約4年に1度開催されているイベント。一般菓子機関賞には約1,200点の応募があり、田沼意次侯にちなんだ同店の「二朱銀」が「中小企業庁長官賞」を受賞しました。

店主の坂下俊介さんは、「最高賞ではないが、菓子のコンセプトなどをしっかり見ていただき評価してもらえた」と喜びを話しました。



受賞した菓子「二朱銀」と賞状を持ち、笑顔を見せる坂下さん



「静岡まきのはら大使」でもある加藤女流四段による指導対局

小さな棋士たちが盤上で熱戦を

■第4回 牧之原市将棋交流大会

「第4回 牧之原市将棋交流大会」が8月16日、平田寺と大江区民会館で開催されました。

当日は低学年と高学年の部に分かれ、市内外から参加した児童27人は一手一手真剣な顔つきで打っていました。また、決勝戦・3位決定戦は王位戦の会場にもなった平田寺にて、盤上で王位戦さながらの熱戦が行われました。

また、山川泰熙四段、加藤桃子女流四段(細江区出身)による指導対局では、参加者はプロ棋士や女流棋士による指導を熱心に受けました。

次の「鈴鹿の夏」を夢見て

■市内チームが鈴鹿8時間耐久ロードレースに3年連続出場

「ゲズンハイト」(菅山区)が8月1日～3日に鈴鹿サーキット(三重県)で開催された「2025 FIM 世界耐久選手権 鈴鹿8時間耐久ロードレース 第46回大会」に3年連続で出場しました。

18周目で転倒し、最後までバイクを修理することができず、出場55チーム中48位(周回数17周)。第1期として、今回は最後の挑戦で出場しましたが、残念ながら完走することはできませんでした。

伊藤草人代表は、「この3年間、市民の皆さんに協力いただき、本当に感謝したい」と話しました。



決勝レース前に調整するゲズンハイトチーム



榛原高校書道部員に書道を習うケルソー高校生

国際交流で互いの文化を学ぶ

■市国際交流協会「学生交換ホームステイ事業」

市国際交流協会は、本市の姉妹都市である米国ワシントン州ケルソー市との交換ホームステイ交流を行いました。

7月27日に市内の高校生など4人がケルソー市に出発し、ケルソー市高校生と共に8月2日に帰国。相良高等学校の姉妹校であるケルソー高校生2人が8月8日まで本市を訪れ、市内の家庭にホームステイしました。滞在中、市長表敬訪問や静波海水浴場でのサーフィン体験、相良・榛原高校生との交流などを行いました。